



タイトル「**2024年度スポーツ科学部(公開用)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	SSCS2322		
科目名	救急処置法		
担当教員	富樫 俊文		
対象学年	4年	開講学期	前期
曜日・時限	月 3		
講義室	1501	単位区分	
授業形態	講義	単位数	
科目大分類	専門科目		
科目中分類	専門基礎		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E 学識・専門技能 スポーツ生理学分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 3－G 状況把握力・判断力 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 D P 4－F 探求力・課題解決力 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 D P 4－I 理解力・分析力 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E 1 学識と専門技能（40%） G 1 状況把握（15%） F 1 探究と論拠（15%） F 2 課題解決（15%） I 1 理解・分析と読解（15%）		
教員の実務経験	担当教員の東京DMAT隊員およびインストラクター（DMAT）として専門的な訓練を受けた災害医療の知識・経験や、大学病院で理学療法士（PT）としての勤務で培った緊急時対応や病態理解を含めた専門的な知識・経験を交えながら授業を進めていきます。また、各種スポーツ競技のアスレティックトレーナー（AT）として経験した外傷・障害発生時の対応など、教科書や文献を読むだけでは得られない、より実践的で現実的な対応が習得できるように講義をします。（第13回目を除く全回）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発目標ステージとの対応 2 進期期 ～ 3 発展期		
科目概要・キーワード	救命・救急処置を要する状況は、スポーツ活動中はもちろん、日常生活の中でもよく発生します。そのことを踏まえ、日常に遭遇する救急事態からスポーツや屋外活動における救急事態に至るまでの様々な状況に対して、適切に一次救命処置や救急処置などの対応ができるようになるために、基礎的知識を資料・視聴覚教材等を用いて学修するとともに、救急処置現場における対処のポイントを修得します。特に、創傷の出血対策や感染症に対する理解を深め、また生命に直結する重要な心肺呼吸器疾患や病態についても学修します。授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、または各授業を補		

	完・代替するためオンライン（オンデマンド型）授業を取り入れる場合があります。 ■キーワード 救急処置、熱中症、RICE処置、心肺蘇生法、AED										
授業の趣旨	■副題 救急時の一次救命処置、心肺蘇生(胸骨圧迫)法、AEDの使用方法をマスターするとともに、スポーツ活動中に起きやすいケガや病気について、どのような徴候や状態に、どんな救急処置を行うべきかを知り、処置のしかたを身につけましょう。 ■授業の目的 一次救命処置、心肺蘇生法、AEDの使用方法をマスターすること、およびスポーツ活動中のケガに対する救急処置ができるようになることを目的とします。 ■授業のポイント スポーツ活動中に多いケガ（スポーツ外傷）およびRICE療法についての理解を深めておくことが重要です。										
総合到達目標	■救急処置が必要な場面に遭遇した時に、適切な判断および処置対応が出来るようになるために、救急処置に関する基礎的知識を修得し、一次救命処置や外傷時の救急処置を遂行する能力を身につける。 ・心臓突然死、心臓振盪など救急処置が必要な病態についての理解を深め、心肺蘇生法の手順、胸骨圧迫の実際、AEDの使用法など、救急時の一次救命処置のしかたを身に付け、説明できるようになる。（第1-5、13-15回） ・スポーツ活動中に発生しやすいケガや故障、すなわちスポーツ外傷・障害に関する知識を深め、初期対応法を修得し、実際の現場で実践できる。（第6-13,15回） ・スポーツ外傷に対するRICE処置の重要性、アイシングの留意点、具体的な方法、応用法などについて学習し、実際のスポーツ現場に応用できる。（第1,7,8,13回） ・スポーツ活動時に発生する内科的疾患として、熱中症、胸痛、呼吸困難、ショック、脱水などの病態及び初期対応について理解し、適切に対応する能力を身に付け、実践できる。（第2,14,15回）										
成績評価方法	■授業内レポート(70%)：適用ルーブリック E1・G1・F2・I1 (評価の観点) 毎回、授業内容の理解度を図ります。 (フィードバック方法) 後日解説を行います。 ■授業内課題・総括レポート1回(30%)：適用ルーブリック E1・G1・F2・I0 (評価の観点) 授業の内容を踏まえて理論立てて明確に説明できるか、理解度を確認します。 (フィードバック方法) 後日模範解答を提示し解説します。										
履修条件	特にありません。										
履修上の注意点	特にありません。										
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ ガイダンス、救急処置の基本的知識 ②授業概要 担当教員のDMAT、PT、ATとしての経験を踏まえた授業の概要、目的、進め方や評価の方法などについての説明を理解し、救急処置の重要性、救急処置実施者の心得、救急処置の基本的留意点について把握し説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) シラバスの内容をよく確認しておく。 ④復習(119分) 授業内容を確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 熱中症に対する救急処置 ②授業概要 熱中症に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、熱中症とは、熱中症の分類、熱中症の対処および予防について学び、説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 事前配付授業資料、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅠ⑦p97-4応急手当、環境による緊急事態、熱中症 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅢp211-(1)暑熱対策;熱中症を読んでおく。 ④復習(119分) 講義内容を確認し、熱中症について自分なりにまとめておく。 </td></tr> <tr> <td>3</td><td> ①授業テーマ スポーツ現場における心臓突然死と救急処置 ②授業概要 心臓突然死とその救急処置に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、心臓突然死とその対応について、スポーツ現場における救急処置の実際を習得し、説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 事前配付授業資料、JATI[理論編]p152-156：④一次救命処置、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅠp88～を読んでおく。 ④復習(119分) 心臓突然死について自分なりにまとめておく。 </td></tr> <tr> <td>4</td><td> ①授業テーマ 救急時の一次救命処置(BSL)、心臓振盪と心肺蘇生法、AED ②授業概要 一次救命処置に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、心肺蘇生法の意義、必要性と基礎知識、心肺蘇生法の実際について学び、 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス、救急処置の基本的知識 ②授業概要 担当教員のDMAT、PT、ATとしての経験を踏まえた授業の概要、目的、進め方や評価の方法などについての説明を理解し、救急処置の重要性、救急処置実施者の心得、救急処置の基本的留意点について把握し説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) シラバスの内容をよく確認しておく。 ④復習(119分) 授業内容を確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	2	①授業テーマ 熱中症に対する救急処置 ②授業概要 熱中症に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、熱中症とは、熱中症の分類、熱中症の対処および予防について学び、説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 事前配付授業資料、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅠ⑦p97-4応急手当、環境による緊急事態、熱中症 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅢp211-(1)暑熱対策;熱中症を読んでおく。 ④復習(119分) 講義内容を確認し、熱中症について自分なりにまとめておく。	3	①授業テーマ スポーツ現場における心臓突然死と救急処置 ②授業概要 心臓突然死とその救急処置に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、心臓突然死とその対応について、スポーツ現場における救急処置の実際を習得し、説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 事前配付授業資料、JATI[理論編]p152-156：④一次救命処置、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅠp88～を読んでおく。 ④復習(119分) 心臓突然死について自分なりにまとめておく。	4	①授業テーマ 救急時の一次救命処置(BSL)、心臓振盪と心肺蘇生法、AED ②授業概要 一次救命処置に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、心肺蘇生法の意義、必要性と基礎知識、心肺蘇生法の実際について学び、
回	内容										
1	①授業テーマ ガイダンス、救急処置の基本的知識 ②授業概要 担当教員のDMAT、PT、ATとしての経験を踏まえた授業の概要、目的、進め方や評価の方法などについての説明を理解し、救急処置の重要性、救急処置実施者の心得、救急処置の基本的留意点について把握し説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) シラバスの内容をよく確認しておく。 ④復習(119分) 授業内容を確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。										
2	①授業テーマ 熱中症に対する救急処置 ②授業概要 熱中症に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、熱中症とは、熱中症の分類、熱中症の対処および予防について学び、説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 事前配付授業資料、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅠ⑦p97-4応急手当、環境による緊急事態、熱中症 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅢp211-(1)暑熱対策;熱中症を読んでおく。 ④復習(119分) 講義内容を確認し、熱中症について自分なりにまとめておく。										
3	①授業テーマ スポーツ現場における心臓突然死と救急処置 ②授業概要 心臓突然死とその救急処置に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、心臓突然死とその対応について、スポーツ現場における救急処置の実際を習得し、説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 事前配付授業資料、JATI[理論編]p152-156：④一次救命処置、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅠp88～を読んでおく。 ④復習(119分) 心臓突然死について自分なりにまとめておく。										
4	①授業テーマ 救急時の一次救命処置(BSL)、心臓振盪と心肺蘇生法、AED ②授業概要 一次救命処置に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、心肺蘇生法の意義、必要性と基礎知識、心肺蘇生法の実際について学び、										

	説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 事前配付授業資料、JATI[理論編]p152-156 : ④一次救命処置、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト I p88-95 : 3 一次救命処置、心肺蘇生の手順を読んでおく。 ④復習(119分) 緊急時の一次救命処置(BSL)、CPR、AEDが使用できるようにする。
5	①授業テーマ 突然死の予防、胸骨圧迫の実際 ②授業概要 胸骨圧迫法の実際に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、突然死の原因とその予防、CPR、胸骨圧迫とAED使用法を他人に説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 事前配付授業資料、JATI[理論編]p152-156 : ④一次救命処置、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト I p88を読んでおく。 ④復習(119分) AEDの場所を確認しておく。心肺蘇生の手順を他人に指導する。
6	①授業テーマ スポーツにおける外傷・障害 ②授業概要 担当教員の実務経験に基づいた、スポーツ活動時に発生するケガや故障、すなわちスポーツ外傷とスポーツ障害に関する講義を理解し、それを踏まえて、スポーツ外傷・障害について、その病態の違いや初期対応の実際を学修し説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 事前配付授業資料を確認し、自身が今までに経験したスポーツ活動に伴ったケガや故障についてまとめておく。 ④復習(119分) スポーツ外傷・障害の特徴とその対応について、自分なりの説明をまとめる。
7	①授業テーマ 外傷時の救急処置①、皮膚などに傷のないケガの処置 ②授業概要 (1)外傷とは、(2)炎症とは、(3)組織の損傷、(4)アイシングの効果、(5)RICE処置の重要性、留意点、具体的方法、応用方法などについて、担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、その内容を説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 事前配付授業資料、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト I p98-101 : 外科的応急処置、RICE、JATI[理論編]p147-149 : ②外傷の救急処置(皮膚などにキズのないけがの処置)を読んでおく。 ④復習(119分) 講義内容を確認し、皮膚などに傷のないケガの処置について自分なりにまとめておく。
8	①授業テーマ 外傷時の救急処置②、皮膚などに傷のあるケガの処置 ②授業概要 皮膚などに傷のあるけがの種類と危険性、出血の種類と止血処置、感染防止などについて、担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 事前配付授業資料、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト I p96-97 : 4 応急手当、外傷による緊急事態、I p102 : 傷の手当てと応急処置、JATI[理論編]p170-172 : 2 創傷の応急処置(皮膚などに傷のあるケガの処置)を読んでおく。 ④復習(119分) 講義内容を確認し、皮膚などに傷のあるケガの処置について自分なりにまとめておく。
9	①授業テーマ 突き指、捻挫、靱帯断裂、肉ばなれ ②授業概要 スポーツ活動時によく遭遇する外傷として、突き指、捻挫、靱帯断裂および肉ばなれについて、担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、自身が受傷した時に対応できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 事前配付授業資料、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト I p96を読んでおく。 ④復習(119分) 授業内容を確認して、スポーツによる外傷について自分なりの説明をまとめる
10	①授業テーマ 外傷性骨折について ②授業概要 スポーツ外傷や交通事故、転倒・転落などで発生する外傷性の骨折について、担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、外傷性骨折の病態および初期対応法を説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 事前配付授業資料を確認し、人体の骨について名称を覚えておく。 ④復習(119分) 授業内容を確認して、骨折について自分なりの説明をまとめる。
11	①授業テーマ 頭頸部・脊椎外傷時の救急処置 ②授業概要 担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、頭部外傷および頸部外傷の救急処置の留意点、処置の実際、現場での応急処置の実際について学び、説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 事前配付授業資料、JATI[理論編]p156-158 : ⑤頭頸部外傷の対応、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅢ第7章3-2頭頸部の外傷・障害

	(p187-188)を読んでおく。 ④復習(119分) 講義内容を確認し、頭頸部外傷について自分なりにまとめておく。
12	①授業テーマ サポーターとテーピング、装具療法 ②授業概要 靱帯損傷などの時に使用するサポーターとテーピング、スポーツ用装具について、担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、これらの使い分けができるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 事前配付授業資料、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅠp96を読んでおく。 ④復習(119分) 授業内容を確認して、スポーツに外傷に対する装具及びテーピングの使い分けについて自分なりにまとめておく。
13	①授業テーマ 理解度確認 ②授業概要 担当教員の実務経験に基づいたこれまでの授業を踏まえて、救急時の一次救命処置、心肺蘇生(胸骨圧迫)法、熱中症、スポーツ外傷・障害に対する初期対応法などについて理解度確認テストを行う(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) これまでに学んだ内容の総復習をしておく。 ④復習(119分) これまで学んだことと理解度確認テストの内容を振り返り、知識の再検証をする。
14	①授業テーマ その他の内科的疾患や特殊な疾病の救急処置 ②授業概要 ウイルス等の感染症、過換気症候群、感冒などの病態及び救急処置対応について、担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し、それを踏まえて、説明できるようになる(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 事前配付資料、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅠp96-97、Ⅲp211-214を読んでおく。 ④復習(119分) 講義内容を確認し、各種応急手当について自分なりにまとめておく。
15	①授業テーマ まとめと理解度確認 ②授業概要 担当教員の実務経験に基づいた授業内容を踏まえて、これまで学習してきたことを総括するとともに、理解度確認を行う(E1, F2, G1, I1)。 ③予習(120分) 今までの講義内容および配付資料等を読み返し、各回のテーマに関する知識を整理し自分の考えも含めて論じられるように準備する。 ④復習(119分) まとめおよび試験の内容を振り返り、救急処置法に関する知識を再検証するとともに今後の学修計画を考える。
関連科目	特にありません。
教科書	特に指定しません。授業資料を配付します。
参考書・参考URL	JATI認定トレーニング指導者テキスト[理論編]p147～160：救急処置法 ISBN978-4-469-26947-5 日本スポーツ協会 公認スポーツ指導者養成テキストⅠp88～102：救急処置 日本スポーツ協会 公認スポーツ指導者養成テキストⅢp211～213：特殊環境下での対応
連絡先・オフィスアワー	■連絡先：開講時に告知します。 ■オフィスアワー：開講時に告知します。 それ以外の時間についてはメール等でアポイントをとればラーニングセンターや研究室等で対応します。
研究比率	

